

(概要)

パキスタン地震被災地域における復興のための人材育成プロジェクト

Training and Capacity Enhancement of Local Governments in the Earthquake Affected Areas of Pakistan

場所 : パキスタン北部の地震被災地
実施機関 : NGO アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN)



【プロジェクト背景】

2005年10月8日、パキスタンで発生した地震により、死者73,000名、負傷者70,000名という被害を及ぼした。被害は家屋だけではなく、学校、商業施設、病院、政府庁舎などに及び23億USドルもの経済損失を引き起こしている。被災後の長期的なネガティブな影響を避けるためには、次のことが必要であると考えられた。

行政能力、 国際機関による早急な支援供給、 迅速な復興

UNISDR (国連国際防災戦略) によるニーズアセスメント調査では、国、地方政府、コミュニティなど様々なレベルでの、トレーニング、キャパシティービルディング、防災に対する意識が重要であると指摘している。

【過去の災害】

1985年9月19日 メキシコ地震

死者5,000名、損壊家屋48,000戸、被災後24,000世帯が2年間も仮設住宅で生活した。復興活動はわずか2年

1993年 インド、マハラシュトラ州のラトゥール地震

死者8,000名、損壊家屋230,000戸、3万世帯が4年間仮設住宅で生活。1994～1999年まで復興活動。

1995年1月17日 阪神・淡路大震災(神戸)

死者6,400名、全壊家屋134,000戸、31,000世帯が3～4年間仮設住宅生活。1995～1999年8月まで復興活動。

1999年8月17日 トルコ地震

死者9,000名以上、復興活動3年以上。

2001年1月26日 インド、グジャラート地震

損壊家屋370,000戸、300,000世帯が仮設住宅で生活。世界銀行が支援して9～10年の復興計

画がたてられている。被災地の建築物を建て直すのに4年ほど必要。

2003年12月26日 イラン、バム地震

死者35,000名、負傷者数千名。現在も復興活動が続いている。

異なる社会、コミュニティの経験を踏まえ、パキスタンでの復興支援では、経験を共有する、過去の様々な地域での復興活動から学ぶという強い要素が必要になってくる。

過去の経験を通して分かったことは、

- 災害軽減および準備に対する、関係者間での意識のレベルが低い
- 人々の好奇心は高い
- 防災意識を作り出すようなイニシアティブをとっていたところでは、受益者は課題に対する意識を持ち続けてはいるものの、その意識を行動に移すための適切な知識やスキルを持ち合わせてはいなかった
- 災害後のシナリオづくりは、リスク軽減という課題を開発の中でメインストリーム化するための重要な機会を与える
- など、いくつかが挙げられる。

したがって、即時のニーズはさておき、長期の復興過程におけるニーズは、

- 将来おこる可能性のある災害に対処するため、フォーカルポイント（連絡・調整係）となる地方と国の行政機関のキャパシティを向上させる
- 災害復興の経験を、長期的な災害への備えと開発につなげる
- 復興プログラムのためのモニタリングと評価プロセスをつくる

【目的】

このプロジェクトの目的は、開発や災害マネジメント分野における現地の人的資源の能力向上をはかることによって、リスク軽減をメインストリーム化することである。

プロジェクト実施の目標は、以下のとおり。

- a) リスク軽減の教育とトレーニングの場としてノリッジリソースセンターをつくる。
- b) カスタマイズされた開発・リスク管理者用災害軽減のための試験用パッケージをつくり、テストする。
- c) ノリッジリソースセンターが持続的に現地の関係者と連携できるシステムをつくる。

活動内容は、以下のとおり。

- i. ノリッジリソースセンターの枠組みをデザインする
- ii. 4つのノリッジリソースセンターを立ち上げる
- iii. ノリッジリソースセンターの重要なキーパーソンとなる関係者に対して、トレーニング

を実施する

iv. トレーニングの効果についての定期的なモニタリングと評価

このプロジェクトは、ADRRN のメンバーNGO のうち、SEEDS (インド、アジア)、京都大学大学院地球環境学堂 IEDM、マーシーマレーシア (マレーシア)、パタン (パキスタン) が中心となり実施された。エヌセット (ネパール) はトレーニングを通して技術的知識の提供を行った。

